

～今年創業88周年を迎えられる

株式会社フジキン代表取締役 兼 CEO小川洋史様から

今までの歩み・これからの歩みについて伺いました～



Q：フジキン様は1930(昭和5)年5月に創業され、今年で創業88周年を迎えられます。長年にわたり超精密バルブ機器システムのトップランナーとして、また民間企業として国内初のチョウザメ人工ふ化に成功、新規事業としてライフサイエンス事業への進出、CSR活動など多角的に展開されていますが、大切にされてこられた企業理念は何ですか。企業経営者にとっても大変興味深いと思えます。

A：(和) (積) (乗) (超) (極) が鐵戰(鐵底實戰) 経営理念であります。

和=たし算、積=かけ算、乗=かける数、超=無限大、極=すべてを超越するもの、そして「先ず(和)から、(積)して同ぜず、(乗)から(超)へ、(積)から(乗)へ、(乗)から(超)へ、(超)から(極)へ」と無限に翔く不撓不屈の仏教精神でフジキンのだるま魂も同じであります。社是、社訓も定めており取締役会など重要な会議や機会に唱和しています。

Q：ひとつづくり、うりづくり、ものづくり、わざづくり、しつづくり、かちづくり、ねた&ネットづくり、ことづくりに加えてプラスαと海外拠点、関連グループが一体となって展開されていますがグローバル化、グループ化についてこれからのビジョンをお伺いします。

A：各部門は「人・物・金」の要素を8項目に表現しそれに追加して「+α(〇〇〇)」があります。何事もプラスアルファにより新たなアイデアを創出していくことが大事であるからです。またフジキンは「創語」だらけです。これはすべて「創」の発想が必要という理念からきています。これからはグローバル化(グローバルとローカル)を進めドクターやマイスタークラスの有能な外国人も採用して参ります。そしていずれはフジキンからノーベル賞受賞者と宇宙飛行士を輩出する方針があります。

Q：国際見本市や大阪万博の誘致にご尽力されていますが、来年はG20の大阪開催もあり関西経済活性化についてはどのようにお考えでしょうか。

A：最近の大阪は人口も増加、入超であるようです。関西は食べ物がうまい、安い、人が親切、活気があることで「人、物、金」が入ってきています。また、大阪にはりピーターも多いです。官学産社(民)がさらに一体となって行動する絶好のチャンスです。この時機に大きなイベントが開催されることは関西にとってシナジー効果が得られる良い機会です。国際見本市も各組織が一致団結して大阪(関西)の持続的発展のために是非継続して開催できるように準備したいと考えています。

Q：VECに対しても長年ご支援・ご協力を頂いておりますが、ベンチャーに対するアドバイス・ご意見をお聞かせ下さい。また小川代表 兼 CEOのインタビュービデオも見られる大阪企業家ミュージアム(大阪産業創造館地下1F)を見学し、創業者・経営者精神の認識をしていくことが必要ではないでしょうか。

A：もともと関西はニュービジネスの発祥や起業が盛んな地域です。最近では開業率が増加してきました。ニュービジネスや新規の起業が増えて関西が活性化復活する可能性は十五分にあります。また大阪産業創造館様は機会がありましたら是非ご見学下さい。得られるものがきつと多いはずで、ベンチャーや女性起業家、若い経営者の方々には、チャレンジスピリット、イコール、ベンチャーレンジャーとしてさらに活躍して頂きたいと考えています。そういう意味で日本で唯一の公的団体であるVEC様には益々期待を大きくしております。

また、弊社フジキンは、おかげさまで今年で創業88周年を迎えます。この節目を機に、フジキンは今まで以上に感謝の気持ちをお伝えして参りたいと考えております。



中小企業の医療機器分野進出の難しさ(第二回)

昨年、「てんこもり」に「中小企業の医療機器分野進出の難しさ」について、経験談を少し書かせて頂きました。今回は、その第二回目を書かせて頂きます。

中小企業の医療機器分野への参入は、企業として相当の覚悟が必要だと思っています。

前回は、大阪商工会議所の「次世代医療システム産業化フォーラム」に参加することにより医療機器分野へ進出した経緯でしたが、今回は大阪市立大学の例をご紹介します。大阪市立大学の荒川哲男学長が医学部部長に就かれていた際に、(株)アオキの青木豊彦会長(まいど1号でお馴染みの方です)と協力し「(一財)ものづくり医療コンソーシアム」という財団を立ち上げられました。2013年8月のことでした。この財団は、「大阪の中小企業を元気にしなければならない」「中小企業の持つ技、技術を医療分野で発揮して欲しい」という荒川学長の熱い思いにより設立されました。現在の財団理事長は大畑建治医学部長です。

特に荒川学長が強調されたのは、「中小企業の「侍」たちを集まって欲しい」ということでした。

「大阪市立大学医学部付属病院のニーズを全て皆さんに公開するので、取り組める案件があれば是非取り組んで研究開発して頂き、製品化することにより元気になって欲しい」と述べられていました。当社も当初より参画し様々な勉強会、見学会に出席するなかで、医療現場では、まだまだ中小企業が参入できる分野があるということを感じました。我々が日常現場で使用している器具と同じような器具でも「医療機器」と名が付くだけで、その価格は数倍、数十倍となっています。医療機器は独立行政法人医薬品医療機器総合機構(PMDA)の認可が必須であり、認可まで長い期間が必要であること、また使用される数量が限られているため高価になるのは理解できるのですが、それにしても高い！ また最終ユーザーである医療機関に至る販売ルートも数件の医療機器商社を通る場合が多く高額になります。

(一財)ものづくり医療コンソーシアムは、年に1～2回、付属病院の医師、薬剤師、看護師、技師の方々による「ニーズ発表会」が開催されます。この発表会は、財団に参画されている会員限定で開示されるもので会員外の企業は参加できません。様々なニーズが発表されます。簡単なベッド周りの器具から、各種検査機器、手術に使用する器具、装置まで多岐にわたります。当然、各企業の得意、不得意分野がありますので、ニーズ全てに対応できるものではありません。会員がそれぞれの得意分野を持ち寄り数社合同で研究開発をする場合もあります。

当社も、心臓血管外科学の柴田利彦教授とお知り合いになり、心臓の内視鏡手術に使用する器具について研究開発を行っています。近年の心臓手術は、高度な手術でも開胸(胸を切り開くこと)手術をせず、内視鏡手術で対応する場合が殆どであることに驚きました。

教授のご指導により製品として完成しつつありますが、一般の医療機関で使用して頂くにはまだまだ先になると思います。

<次ページに続く>

中小企業が医療機器へ参入するには医療現場のニーズを把握することが必要ですが、これが最も難しく、また例えニーズが解っても医師からの助言が無ければ遅々として進みません。また、研究開発する過程で、「もう少しここを改良して欲しい」とか、様々なニーズが新たに加わり、企業側としてもスピード感を持って対応しなければならないことが多々あります。

当社は独立行政法人国立病院機構及び大阪市立大学とそれぞれと医療機器の共同研究を行っていますが、中小企業として特に特許、意匠出願について感ずるところがあります。

医療機器を開発する上で絶対避けて通れないのが「知的所有権」です。特に、新しい発想の医療機器開発においては特許戦略は非常に重要になります。世界を市場として考えるのであれば、主要各国に特許出願をすることも必要となってきます。各国への特許出願方法は色々ありますが、当社はPCT出願（国際特許出願）を行っています。また、特許のみならず意匠登録も必要になってきます。意匠登録も世界各国へ複数件登録する必要があります。これらの知財の出願だけでもPCT出願であれば1件につき数百万円の費用が必要になってきます。特許出願が複数件になるとその費用も大幅に増加します。中小企業にとって回収できるかどうか不明な開発案件に投資しなければならないため大変大きな負担となります。特許出願に関する補助金制度は色々あるのですが、PCT出願の場合補助対象にならないとか、補助金申請期間が限定されているとか・・・等の制約があり、「帯に短し襷に長し」の状態です。特に申請期間に制限があると、特許出願の機会を逸する可能性もあり自己資金で対応せざるを得ない状況になります。もう少し、柔軟な運用を考えると、違う考え方の補助金制度を構築するとか、中小企業者の立場に立った支援が必要だと思えます。出願費用を捻出するだけで財政的に精一杯になる場合もあると思えます。

医療機器分野は中小企業にとっては進出したい分野ではありますが、新規参入が難しい分野でもあります。しかし、現在研究開発を行っている製品については何とか頑張って成功させたいと思っています。これからも試練は続きます・・・。

新和商事株式会社 代表取締役社長 森下喜郎



「株式会社ベイルインテリア 金城貞美の インテリア収納からはじめる開運術」③

整理収納とは仕組みづくりです。モノを使ったら【元に戻す】ことが片付けです。元に戻す位置が無ければ片付けはできません。

その場所の見た目が良ければ良いほどその場所を維持したくなります。その仕組みづくりのポイントと美しさの持続方法をお伝えします。

キッチンが機能的に整理されていると時短家事お料理が楽しくなる。いつもの品数よりも一品増える??なんてことも。日頃つかうパブリックエリアだからこそ美しく誰もが憧れるキッチンエリアをつくりましょう。

POINT①

キッチンのシンク下の両開きはうまく使わないとデッドスペースになってしまいます。収納グッズをうまく利用して機能的な使いやすい空間にします。
火をつかうところコンロでは、調理グッズ、水をつかうシンクではお掃除やザルなど、飛行機のcockピットのような手を伸ばせば使いたいものがすぐとれる仕組みをつくります。

POINT②

開き扉の奥側は使いづらい場所です。取り出しにくい場所ほどものがたまりやすくなりますので、便利な収納アイテムを活用しましょう。引き出しタイプやカゴにまとめていると、簡単に奥にある物まで管理することができます。

POINT③

収納は立てることが基本です。ライパンや、ふた、ゴミ袋も立てます。どうしても積み重ねる場合は2種類までです。

POINT④

食品を入れる場合は、プラスチックカゴを利用してアイテム別に分けてあげると、取り出しやすいだけでなく、物の量を増やしすぎないように効果もあります。また油污れなどのお掃除も簡単になりますよ。

キッチンは必要なものを必要な時にすぐに取り出せる仕組みづくりが大切です。
使用頻度の高いキッチンツールや調味料等は一番取り出しやすい場所に収納しましょう。

株式会社ベイルインテリア 代表取締役 金城 貞美



point①



point②



point③



point④

～最近のVEC関連行事实施分のご紹介～

◆LED関西（関西女性起業家応援プロジェクト）開催される。

今年も2018年1月24日（水）にグランフロント大阪で450名近い来場があり、盛大に行われました。女性起業家は182件のエントリーの中から12名のファイナリストが選出されました。サポーターであるVECとしてもファイナリストを応援して参ります。

◆VEC新年交流会の開催

2018年2月9日（金）に綿業会館にて、本田技研工業株式会社様から自動車に関わる将来についてご講演を頂きました。

◆公的機関合同による合同交流会開催される。

2018年3月14日（水）に大阪産業創造館にてベンチャーとサポーターでマッチングや情報交換が行われました。

～「大阪市イノベーション拠点立地促進助成金制度のご案内」～

世界から人材・技術・投資が集まるイノベーション都市をめざし、オープンイノベーションやベンチャー育成を通じて新しいビジネスを生み出す拠点施設の整備の助成制度が開始され、内容により上限3億円までが可能と広報されています。

- ・申請期間：平成29年7月12日から平成32年3月31日まで（予定）
- ・問い合わせ先：大阪市経済戦略局立地交流推進部立地推進担当 ・TEL：06-6615-6765 ・E-mail：ga0024@city.osaka.lg.jp

VEC関西支部 事務局

～VEC関西より～

・VECも以前、(財)研究開発型企業育成センターと呼ばれて、私も殆どすぐ参加させていただきました。今年で43年になるそうです。その間、色々な企業が生まれて、そして消えてゆきました。3月の交流会には、まだ20代の大学院生がAIベンチャーを立ち上げ、立派なビジネスの発展プランと現在の様子を我々にも判り易く話されました。頼もしく、しかも洗練された大人を感じました。（本田）

・今年の冬はオリンピック・パラリンピックで盛りまりました。悪天候で一発勝負の競技もあり残念な選手もいましたが、色々な競技で感動をもらいました！スポーツの世界は国境を超えて人と人との良い関係が生まれ、日本のいい所を日本以上に海外メディアが紹介してくれる、見てて少し嬉しくなりました。2020年の東京オリンピックも楽しみです！
この「てんこもり」も今回からカラーバージョンとなり、ますます明るい情報をお送りしたいと思います！（藤本）

・先日VECが取材協力で女子大学生3名からインタビューを受けることになり私も微力ながら取材を受けさせていただきました。日頃は機関紙「てんこ

もり」で経営者の方々に取材をさせて頂くのですが今回は反対の立場で女子大学生の質問に返答することに会話が成立しているか、言葉遣いは間違っていないか・・・かえって私の方が緊張してしまいました。彼女達との取材の真剣な時間はこれからの就活に大いに役立ってほしいと感じました。（濱本）

・4月号はVECが永年応援を頂いております小川洋史代表取締役兼CEOからフジキン様88周年に関して、新和商事(株)森下喜郎代表からは中堅中小企業の新分野進出について今年もメッセージを頂きました。(株)ベイルインテリア金城貞美代表からはシリーズとしてご寄稿を頂いております。ご協力有難うございました。次回は7月号の予定でございますので皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。（澤村）

<交流会の予定>

平成30年4月17日(火) 一財)VEC 理事長 市川 隆治
平成30年5月18日(金) HOTEL SHE 株式会社L&G GLOBAL
取締役・CCO 龍崎 翔子 様

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293